

2025年5月27日

立教大学国際学術研究交流制度  
2025年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	コミュニティ福祉学部・教授
氏名	鈴木 弥生
派遣機関名	South Asia Institute, Columbia University 所在国：米国
研究テーマ	新型コロナウイルス感染がニューヨーク市の移民労働者に及ぼす影響 ：南アジア出身者を中心として
派遣期間	2025年4月1日～2025年4月30日（30日間）
研究経費	450,000円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。  
活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2024年9月16日	離日：コロンビア大学南アジア研究所客員研究員としてニューヨーク市に滞在（別予算による滞在）
2025年4月1日	ニューヨーク市立大学（City of University in New York: CUNY）クイーンズ校講師トーマス・チュング氏を訪問 ・2025年3月にバングラデシュ移民二世を対象として依頼していたアンケート用紙受取 ・事前に了解を得ていたバングラデシュ出身学生からのインタビュー調査
4月2日	Columbia University, School of Professionals：研究会参加 Justice Across Borders: Migrants, Workers, and Human Rights [研究会タイトル]
4月2日	Graduate Center-CUNY：講演会参加 When the City Stopped: Stories from New York's Essential Workers ：Manhattan historian Robert Snyder preserves the pandemic

	<p>experiences of frontline New Yorkers in a new book [講演会タイトル]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バングラデシュ移民第一世代、インタビュー調査</li> </ul>
4月4日	<p>Columbia University, South Asia Institute: 講演会参加及び研究討議  <b>"Bangladesh, The Day After"</b> with Samina Luthfa and Naeem Mohaiemen [研究会タイトル]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Samina Luthfa, Dhaka University  <b>"Women of July Uprising in Bangladesh: Prospects and Challenges"</b></li> <li>2. Naeem Mohaiemen, Columbia University  <b>"A Thousand Subodhs: Unruly graffiti becomes sanctioned murals"</b></li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演者：ダカ大学准教授、サミナ・ルトファ氏と学生蜂起（2024年）におけるバングラデシュ女性の現状と課題について意見交換</li> <li>・講演者：コロンビア大学准教授ナニーム・モハイエメン氏と意見交換、調査協力依頼</li> </ul> <p>そのほか、コロンビア大学博士課程大学院生（インド、バングラデシュ出身者）を含む講演会参加者と懇談及び研究交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロンビア大学南アジア研究所副所長ウィリアム・カリック氏と面談、改めて研究目的及び研究計画確認、調査協力依頼</li> </ul>
4月5・6日	記録整理、調査依頼文、研究経緯（短縮版）作成
4月7日	コロンビア大学 バトラー図書館 資料検索、文献借用
4月8日	<p>Columbia University, College of Physicians and Surgeons  <b>: Eid-al Fitr &amp; Nowruz Mubarak</b> 参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロンビア大学准研究医サルマ・ベグム氏、インタビュー調査及び今後の調査依頼</li> <li>・そのほか、バングラデシュ、パキスタン、中東出身者と交流</li> </ul>
4月9日	<p>Columbia University, Center for Political Economy: 講演会参加  <b>What if the Economy Worked for Democracy?</b> [講演会タイトル]</p>
4月11日	<p>Asian American / Asian Research Institute- CUNY : 研究会参加  <b>National (un)Belonging: Bengali American Women on Imagining and Contesting</b> [研究会タイトル]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告者：ニューヨーク市立大学 マンハッタン校教授ロクサナ・バドルジャ氏の新著(2022), <i>National (Un) Belonging, Bengali American Women on Imagining and Contesting Culture and Identity</i>, BRILL : Leiden and Boston 御恵贈</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューヨーク市立大学法学研究科教授チャウムトリ・ハク氏、コロンビア大学研究員ソニア・ハク氏と研究交流</li> <li>・Bangladesh 移民第二世代、アンケート及びインタビュー調査。</li> <li>・そのほか、Bangladesh 移民第二世代 3 名（コロンビア大学 1 名、ニューヨーク市立大学 2 名）と交流、今後の調査依頼</li> </ul>
4 月 12 日	<p><b>Bengali New Year Celebration</b> [開催場所：タイムズ・スクエア]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bangladesh 移民第二世代、アンケート及びインタビュー調査</li> </ul>
4 月 13 日	<p><b>Bengali New Year Celebration</b> [開催場所：ジャクソンハイツ、ダイバシティ・プラザ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bangladesh 移民第二世代及び第一世代、インタビュー</li> </ul>
4 月 14 日	<p><b>Columbia University, Where Zebus Speak French : Documentary film screening and discussion with director Nantenaina Lova</b> : 上映、質疑応答、レセプション参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロンビア大学教授ゾーイ・クロスランド氏、同上フィルム監督ナンテナイナ・ロヴァ氏、コロンビア大学博士課程大学院生、同学部学生等と研究交流・意見交換。</li> </ul>
4 月 15 日	<p><b>Columbia University</b> : 講演会参加</p> <p><b>The Future of Labor Law and the NLRB</b> [講演会タイトル]</p>
4 月 16 日	<p><b>THE NEW SCHOOL UNIVERSITY</b> : 研究会参加 (Zoom)</p> <p><b>Migrants in NYC: Navigating Educational Inequalities</b> [研究会タイトル]</p>
4 月 16 日	<p><b>Queens Borough President 2025 Bangladesh Independence Day Celebration</b> [開催場所：クイーンズ区役所]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bangladesh 移民第二世代、アンケート及びインタビュー調査</li> <li>・Bangladesh 移民第一世代、インタビュー</li> </ul>
4 月 17 日	<p>マンハッタン：アッパー・ウエスト、スーパー・ジェントリフィケーションと称されているコミュニティの参与観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露店、Bangladesh 移民第一世代及び移民第二世代、インタビュー調査</li> </ul> <p>コロンビア大学南アジア研究所副所長ウィリアム・カリック氏と最終確認のうえ、同氏を通して、コロンビア大学ほか、2つの大学に所属するBangladesh 出身者を対象とした調査依頼送信（電子メール）</p>
4 月 18 日	<p>クイーンズ：ジェントリフィケーションが進むコミュニティの参与観察、露店、Bangladesh 移民第一世代、インタビュー調査</p>

4月19日	マンハッタン：アッパー・ウエスト、ウエストエンド、リヴァーサイド地区の参与観察
4月20日	ブルックリン：ディストリクト・シティの参与観察
4月21日	Hunter College-CUNY: 講演会及びレセプション参加 Promoting Civil Discourse & Intellectual Dialogue Migration Narratives in the U.S: Building Community Capacity and Resilience [講演会タイトル]
4月22日	Columbia University SIPA (School of International and Public Affairs) Economic and Political Development: 研究会参加 Bangladesh's Gen-Z-Led Monsoon Revolution [研究会タイトル] ・講演者：アレックス・カウンツ(グラミン財団元代表取締役兼 CEO) と交流 ・コロンビア大学講師ルミア・セン氏と研究交流、調査協力依頼 ・そのほか、参加していた大学院生（バングラデシュ出身者）と交流 今後の調査依頼
4月23日	マンハッタン、アッパー・ウエスト 露店、バングラデシュ移民第一世代 インタビュー
4月24・25日	The New School University：シンポジウム参加 The India China Institute's 20th Anniversary Symposium [シンポジウムタイトル]
4月28日	ロングアイランド大学ブルックリン校教授シャイド・アリ氏を訪問 科学研究費助成事業、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））[同上] 共同研究者との研究会・打ち合わせ
4月29日	Columbia University: フィルム鑑賞 Francophone Short Films in Harlem 2025 [フィルムタイトル]
4月30日	Graduate Center-CUNY：シンポジウム参加 Are We on The Brink of a New Economic Order? : A panel of experts discusses today's shifting economic landscape and the possibilities for change [シンポジウムタイトル]
9月17日	帰国（別予算にて滞在延長）

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

#### 1. 具体的な研究・交流の内容

受入れ先のコロンビア大学のほか、ニューヨーク市立大学、ザ・ニュー・スクール大学で開催された複数の研究会や講演会のほか、交流会等にも参加して複数の研究者や大学院生との意見交換や研究交流を図ることができた。

また、鈴木が代表を務める「科学研究費助成事業、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）『ニューヨーク市の移民労働者:新型コロナウイルス感染の影響についての国際共同研究』（2022年10月～2027年3月予定、課題番号：22K0025）」の海外共同研究者、アリ・シャイード教授(ロングアイランド大学ブルックリン校)、同共同研究者の佐藤一彦氏と研究会及び今後の海外共同研究に関する打ち合わせを行った。

それと同時に、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大が、移民労働者の労働実態、家族構成員、第二世代の子どもたちの就学・教育、そして移住先のコミュニティに及ぼしている影響について現地調査を実施した。

ニューヨーク市は、多国籍企業、金融産業、情報・通信技術産業が集積するグローバル都市として、グローバル化の拡大とともに変化を遂げてきた。それに伴い、都市周辺部ではさまざまな分野で労働需要が生まれ、移民が非正規労働者や日雇い労働者として働いている。

COVID-19による影響をみると、非専門職や不法滞在労働者はその影響を特に受けやすく、ロックダウンによって状況は悪化した。バングラデシュ出身者への影響をみると、観光客相手の土産店や飲食店の倒産に伴い労働条件の悪い職種へと変更せざるを得なかった人がみられる。また、エッセンシャル・ワーカーとして労働していたバングラデシュ出身者のなかには、感染被害に遭った人もみられる。数カ年にわたって広範囲に拡大した COVID-19 による疾患率や死亡率はラテン系・ヒスパニック系や黒人に高く、アジア系移民の同割合は、相対的に低い数値となっている。ただし、COVID-19 蔓延中においては、アジア系移民労働者の中でも中国出身者への偏見や暴行被害等が報告された。

このような脆弱性と構造的な問題は、COVID-19 の蔓延以前から存在していた。すなわち、コロナパンデミックが始まってから、アメリカ社会の構造的な問題がより顕著になった。そして2025年4月現在、このような構造に内蔵されてきた格差は、アメリカ社会の底辺に押し込まれてきた人々の脆弱性を表面化させている。

#### 2. 今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等

まず、「立教大学国際学術研究交流制度 2025年度『招へい研究員』」助成に基づき、2026年1月中に約2週間、シャイード・アリ教授(同上)を立教大学に招へいする。そこでは、同学部での授業や演習のほか、立教大学の学生、大学院生、セカンドステージ大学履修者、教職員、一般市民も参加できるような研究会もしくは交流会等を実施する。

将来的には、シャイード・アリ教授の新著 (Ali, Syed and Magret M. Chin, 2023, *The Peer Effect: How Your Peers Shape Who You Are and Who You Will Become*, New York University Press: New York) の翻訳や共同執筆・出版を予定している。

続いて、ニューヨーク市内の複数の大学のほか、ダカ大学の研究者とも交流を深めることが出来た。折しも、コロンビア大学で4月に開催された「Bangladesh, The Day After with Samina Luthfa and Naeem Mohaiemen」及び「Bangladesh's Gen-Z-Led Monsoon Revolution」では、バングラデシュの政情不安、2024年の学生による蜂起とその余波、女子学

生の参加と現状について理解を深めた。また、同大学主催の Eid-al Fitr & Nowruz Mubarak にも参加して、バングラデシュや中東出身者とも交流する機会を得た。ニューヨーク市立大学の研究会においても複数の研究者や参加者との交流を深めた。「National (un)Belonging: Bengali American Women on Imagining and Contesting」では、バングラデシュ系二世代の現状について、当事者の声を通して学ぶ機会となった。さらに、「When the City Stopped: Stories from New York's Essential Workers : Manhattan historian Robert Snyder preserves the pandemic experiences of frontline New Yorkers in a new book」では、新型コロナウイルス禍でのエッセンシャル・ワーカーの位置づけと役割、それに対するニューヨーク市民の対応と現状について学びを深めた。

このように、派遣研究期間中、世界を舞台に活躍する複数の研究者と交流出来たことは大きな成果であった。そこでは、今後の調査や海外共同研究についても打ち合わせを行うことが出来た。ここでの成果や交流をより持続するために、これまで実施した全カリコラボレーション科目「Local People's Perspectives in Social Development(2018, 2021~2023)」、「Local People's Perspectives in Cultural and Social Problems (2018~2020)」のうち、前者を開講（申請）のうへ、当該派遣期間中に研究交流を行った研究者をこの授業に招待する（Zoom）。そのうえで、シャイード・アリ教授と構築してきたような研究交流や研究成果が見込める場合、立教大学への招へいや国際共同研究を計画・実施する予定である。当該派遣研究期間中の成果を活かして、本学の国際化推進に何らかの貢献ができれば幸いである。

さいごに、このような充実した機会にアクセスすることができたうへに、上述した成果も見い出すことが出来たことから、すべてのご関係者に心より感謝の意を表したい。



コロンビア大学キャンパス内：バトラー図書館